



たのしい 体育・スポーツ

2014年1・2月合併号 通巻第278号

CONTENTS

今月の授業：クラスマットやってみよう ―クラス全員による方形マットでの集団演技― 山内基広

特集 いま、仲間と創る実践研究

【かぜ】実践研究の魅力を追い求めよう!! 酒井忠喜	7
【論考】「すべての子どもに豊かな運動文化を」の真価を問う 田中新治郎	8
【実践研究】舞い舞わば舞いこそ静かにやわらかに ―「みかぐら」と出会った子どもたち― 制野俊弘	12
【実践の背景】「生活と文化をどう結ぶか」―制野俊弘の「みかぐら」実践(中学校)から考える 久保 健	18
【実践研究】「みんな」で作った 3年生側転の授業 宗像絵里奈	22
【実践の背景】若い世代と実践の学び直しをする 吉澤 潤	28
【実践研究】年間を通じて、子どもたちを育てる体育授業 川渕和美	32
―小学5年生、2年目のグループ学習をふり返って―	
【実践の背景】「川渕実践」で大切にされてきたことは何か 安武一雄	39
【実践研究】仲間とともにつくる民舞実践 ―民舞を学ぶことで子どもがどう変わっていくか― 後藤恭子	42
【論考】今、望まれる実践研究、同志会実践研究 ―分析方法論の構築を目指して 石田智巳	46

小特集：研究を通して仲間をつくる

仲間とともに ―愛知支部のプロジェクト活動2012― 玉腰和典・堤 吉郎・半崎寛之	50
故きを温めて新しきを知る支部例会を目指して 狭間俊吾	56
「実践記録を書く」ことの苦しさを知っているからこそ、読者はその奥行きを読もう! 西迫貴美代	60
人数は少なくても楽しく ―岡山支部より― 内田俊理	63

連載

時代を拓く実践をたどる：中村敏雄の4回制バレーボールの実践 石田智巳	66
幼・保の現場より：目の前の子どもの現実と保育者の願いの狭間で 口野隆史	70
私と子どもたち：コーヒーの国で南中ソーラン 保田 征	72
私たちの授業研究：柔道授業 ―「相助相譲・自他共栄」を目指して― 森下博友	74
図書紹介：子安崇夫／吉末 功／牧野共明	77
情報ノート：森 敏生	78
読者の声：田中 僚／大後戸一樹	79
東西南北：星野 実	80
編集後記・次号予告	82



実践研究の魅力を追い求めよう!!

酒井忠喜

創造的な教育実践を行いにくい教育状況がますます進んでいるように思える。その背景として、これまでも教育政策や教育現場の状況がどう変わってきたのかなど、特集を組んで考えてきた。また、このような現状を打開していく糸口として、教師自身の授業へのこだわりの大切さや職場の同僚性の回復、対等な研究仲間を得ていくことを提案してきた。

今回の特集では、こうした問題意識をさらに一歩進め、各地で見られる様々な実践研究の様子を紹介しながら、集団で討議することや授業分析していくこと、先行実践にあたって研究することがそれぞれの実践を支えていくことを明らかにしていきたい。

最初は、多忙さから毎日の授業をこなすことで精一杯の現状報告になるのかもしれない。あるいは、目指している授業と現在の授業との隔たりから来るもどかしさを語ることになるのかもしれない。困難な課題を抱える子どもが複数いる中で生活指導に追われ、とてとても授業づくりに向かえ

ないづらい状況の心情吐露だけで終わるかもしれない。しかし、その話に耳を傾けてくれる相手がいるならば、実践研究に向かう可能性が生まれる。かつての自分の実践の様子を話すだけでも得られることもあるはずだ。実践に関する自分の持つ本や雑誌を持ちよることで、新しい知見の発見があるかもしれない。

今月号に寄せられた実践研究は、集う人数や年齢構成、研究のスタイルも様々である。けれども、考えられる範囲の中で創意工夫し、研究課題を抱えながらも今後への展望をもっていることは、共通している。まさに力強い実践研究が推し進められていることには変わりがない。今後、ますます厳しさの増す教育現場の状況において、こうした各自のちょっとした創意を持ち寄り仲間とともに集団検討することこそが、新しい実践を生み出す原動力であることに間違いはない。授業が変わる、子どもが変わることこそがわれわれ教師の喜びであるはずだ。

(さかい ただよし／編集部)